

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 29年 1月 5日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790500033		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名	グループホームのぞみ野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府和泉市のぞみ野3丁目1189-15		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月11日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、今年開設5年目を迎えました。日頃より自治会の方々と交流をさせていただき、夏祭りや自治会清掃等にも参加しています。入居者さんの「安全・安心」を第一に考え、自治会役員・市担当者・地域包括・家族会の方々にもご参加いただき、消防訓練や救命救急講習会を実施しております。「食生活」では、入居者さんと一緒に地域のスーパーに出かけ買い物から調理・盛り付けや後片づけまで一緒に行っています。外食やお誕生日会などの行事にはご家族様にお声掛けし、ご家族水いらずで過ごしていただけるよう、支援を行っています。お一人おひとりの状態に合わせて残存機能活かし、役割がもてるよう支えていきます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成28年12月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームのぞみ野は大阪府南部の和泉市内の新興住宅地の中にあり、開設から5年を経過して事業所である。地域住民との関係構築のため、自治会に加入し、職員が地区清掃やボランティアに参加したり、併設する通所介護事業所を和泉市主催の認知症カフェとして開放し、グループホーム利用者とボランティア、地域住民との交流の場とするなど、継続的な活動により利用者は地域の一員として暮らすことができている。事業所は、医療機関との連携に力を注ぎ、本人、家族、職員、個々の医療関係機関が互いに利用者の情報共有ができる取り組みをしてくる。また「食事が一番の楽しみ」との利用者の声を汲み取り、メニューは職員が料理本を参考にして施設内で全て手作りしている。食材は利用者と一緒に買い物に行き、週に2回は利用者や相談しながら希望に添った献立を作っている。家族とは連絡を密にとり、利用者の声を伝えることで利用者と家族が交流の機会を増やせるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・基本方針は朝礼時に唱和している。また、事業所理念は玄関ホールや事務所に掲示し共有している。	法人理念は、玄関ホールと事務所に掲示し、朝礼時に唱和している。また名札の裏にも理念を記載し、日々のケアが理念に基づいているか職員が即確認が出来るようにする等、理念の周知を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員の方から地域ネットワークの企画や老人会のイベントの情報を伺い参加している。また、地域のすこやか文化祭の作品展に出品している。	自治会に加入し、回覧板で活動やイベントの情報を収集し、老人会や市の行事に利用者と一緒に参加している。職員は日頃から地域の清掃活動や年末の夜警に協力し、地域の人と顔見知りの関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の施設訪問の受け入れ、勉強会の講師派遣等ができる体制であり、オレンジカフェの場として活動している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催している運営推進会議では市職員・地域包括・自治会役員・家族代表の方が出席し、事業報告、意見交換、情報収集を行いホーム運営に生かしている。地域の行事には積極的に参加している。議事録は会議終了後いつでも閲覧できるようファイルし、会議当日の申し送り時に伝えている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、市職員、地域包括職員、利用者家族の出席で、2ヶ月ごとに開催している。事業所の活動報告を行い、出席者から情報やアドバイスをもらい、双方向の意見交換ができています。会議開催日に消防訓練をすることで、実践的な協力体制の話し合いを持っている。議事録は、面会家族や職員が自由に閲覧できる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	電話連絡等で済ませることなく面談し報告、連絡するよう心掛けている。	市の担当者には、運営推進会議の参加依頼等で密に連絡をとっている。空室状況を伝え、他事業所情報やアドバイスを受ける関係ができています。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践          代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束しないケアの実践を行っている。</p>	<p>年1回内部研修で、身体拘束や虐待防止についての研修を行っている。どのような行為が身体拘束や虐待になるかを職員が周知し、気づいたことは毎日のミーティング時に意見を出し合っている。玄関出入り口は解錠し、帰宅願望が強い利用者には職員と一緒に出掛ける等、個別に対応している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底          管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行うとともに日々のミーティングや会話の中でどういう状況が虐待や拘束につながるのかを話し合う機会を持つようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用          管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度の外部研修に参加し参加者により報告会を開いている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学、相談、契約には管理者が必ず同席し、家族の相談、疑問について答えている。また、契約時の重要事項について納得いただき契約書に署名、捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にも利用者の代表者が参加できるように配慮している。また、年1回アンケート調査を実施して運営に反映させるように努めている。</p>	<p>家族の意見は、面会時に聴き取っている。職員は日頃から家族と密に連絡をとり、意見や要望が言いやすい関係を築いている。年1回アンケート用紙を配布し、アンケート結果は運営推進会議でも報告し、サービス向上につなげている。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ミーティング時の話し合いの場で個人の意見を出してもらっている。また、様々な企画の立案は職員に任せ運営者、管理者は安全面の確認を中心に行っている。 個人面談は年1回実施している。	毎日のミーティングで、申し送りの報告後、管理者は職員から意見等の聴き取りを行っている。職員から入浴時間の変更、勤務時間の変更等の提案があり、実践している。年1回個人面談を実施し、個々の要望や提案を聴取する機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の自己評価で職員の意識、向上心の把握をすることで就業環境の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の基礎研修、内部研修（年6回）、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加している。また、勉強会を実施し、研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の施設部会に参加したり、グループホームの情報交換会には必ず職員が参加できるよう配慮している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りの中で本人のニーズを汲み取り、アセスメンを経てケアプランに反映するよう努めている。また、入居暫くは関わりの時間を多く持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りの中で家族のニーズを汲み取り、アセスメンを経てケアプランに反映するよう努めている。		

17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスを家族と共に考え、必要とあらば他のサービスを紹介する。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との日常の会話から今までの生活の様子、嗜好を聞きながら、あくまで本人中心の支援をしている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ利用者には家族の話を、家族には訪問時や便りを通じて様子を伝えるよう努め利用者と家族の良い関係が継続するように支援している。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居まで親しくしくされていた方の訪問を家族に依頼したり、馴染みの場所に出掛ける等の支援を行っている。日常会話の中で出てくる地名にドライブ等で外出している。	友人や親戚の方も自由に訪問できるよう支援している。馴染みの場所や行きつけの理美容院への外出は、家族の協力で、必要があれば職員も同行して出掛けている。車椅子対応の介護タクシーを利用することで、希望の場所への外出が実現できている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活に支障が出ないように、時には職員が間に入ったりして関係を築きながら、馴染みの人が一人でも多くできる様対応している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時又は契約終了後も家族と連絡を取れるようにしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>初回時のアセスメントやミーティング時で課題や要望を把握し、その人らしい生活が継続していける様支援している。</p>	<p>入居前から利用者、家族、担当のケアマネージャー等からの情報を収集し、利用者の希望の把握に努めている。 職員は担当制を採らず、全職員が本人の意向の把握に努め、情報を共有している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>訪問調査時に本人や家族の希望、意向を伺いケアプランに反映させ、職員の共有の認識としている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個人カルテを詳細に記入し、職員が情報を共有することにより、一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居前のアセスメントでは本人、家族、サービス関係者より情報収集し、安心して生活していただける様、スタッフと共に話し合いケアプランに反映するようにしている。</p>	<p>入居時から1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月後にカンファレンスを開きケアプランを見直し、利用者に適応した支援計画作成に努めている。その後は6か月ごとの見直しを行っている。状態の変化があればその都度カンファレンスを行い、見直し時には家族、医師、看護師を含めた担当者会議を開催し、専門的な意見も反映したケアプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>カルテは個人別に記録しカンファレンスでその情報をもとにケアプランに反映させている。</p>		

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>小規模の利点を生かし、本人・ご家族の希望に添えるような柔軟な対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の公共施設利用時の配慮等お願いしている。介護相談員（民生委員）の方にも訪問して頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に本人・ご家族の希望を伺い、その意向に添った支援をしている。また、入居後もかかりつけ医と連携しながら、健康面に配慮している。</p>	<p>入居前から利用者、家族、職員とで話し合い、希望のかかりつけ医、専門医の受診を支援している。通院は家族同伴を原則としている。受診時には利用者の身体状況を記載した「診療情報提供」と医療者側へお願い文「診療時の情報をお聞かせ下さい」の2点を提出している。受診結果は往診・通院記録に記載し家族・職員・医療機関が情報を共有している。協力医の訪問診療は個別に月1～2回、バイタルチェックのみ月4回、歯科医の往診は希望者だけである。緊急時には協力医と24時間体制で対応している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医の看護職との関わりを大切に、ホームでの状況を伝え助言を頂いたり、馴染みの関係づくりを大切にしている。週1回の体調チェックを実施している。</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には定期的な訪問を行い担当医や看護師、理学療法士等の病院関係者と情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>訪問医や看護師と連携し、重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族と話し合い終末期ケアに向けた体制を整えている。</p>	<p>入居時に重症化した場合について事業所が出来ることを説明し、希望を聴き取っている。状態が変化した時は、その都度、家族・職員・医療機関と相談を重ね、特別な医療措置等が必要な場合は他の医療機関や事業所等を紹介し、利用者・家族の意に沿えるよう支援している。今までに1名の看取り経験がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修や緊急対応マニュアルによって徹底している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害、防災マニュアルを基に職員間で周知している。消防訓練を運営推進会議と同日に行い、メンバーの方に参加頂き災害時の協力をお願いしている。また、入居者数の3日分の備蓄を準備している</p>	<p>消防訓練は運営推進会議開催当日に出席者、利用者を交えて年2回実施している。内1回は消防署立会いの下、消火、避難訓練を、もう一回は夜間を想定した避難訓練を行っている。また、職員はAEDを使用しての救命訓練も受けている。USBメモリーに利用者の必須項目を保存し万が一に備えている。羊羹、乾パン、水など3日分を備蓄し、訓練日に点検している。</p>	



IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉の虐待や個人情報の扱いについて日頃のミーティングで話したり、内部研修を実施している。</p>	<p>年1回、全職員を対象にプライバシー、接遇に関する内部研修を実施している。人生の先輩として尊敬の念をもって接するように努め、「待って」の言葉は使用しない様心掛けている。呼び名は利用者や家族が希望する呼び名で対応している。気になる言葉使いの職員にはその都度職員同士注意しあっている。個人情報に鍵の掛かる書庫に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>できるかぎり選択して頂けるよう押し付けの援助を避けるようしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>小規模の利点を生かし利用者のペースに合わせて、個性を大切にしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者の有する能力に応じて、おしゃれを楽しんでもらっている。理美容については、家族とコミュニケーションを図り援助している。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事については買出し、下ごしらえ、盛り付け、後片付けと様々な場面で入居者の能力に応じ支援している。企画で外食やバイキングといった「食」の提供方法を多様に考えている。</p>	<p>職員が献立を作り、調理している。また週2回、昼食は利用者の希望を聴いて献立を作っている。旬の食材を中心に、種類や彩も考えたメニューを心掛けている。食材は利用者と一緒にスーパーマーケットで購入している。利用者は身体能力に応じて盛り付けや後片付けをしている。ホームの庭で採れた野菜が食卓に上ることもある。外食、バイキング、手作りのおやつや弁当等、食事が楽しみになるように支援している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人別に食事摂取量と水分管理のチェック表を用いて、日々の観察をしている。また月初には体重測定も行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>援助の必要な方には、適切な声かけと援助を行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ミーティングで話し合い、またカンファレンス等を実施し入居者の能力に応じた支援をしている。排せつケアの勉強会を行ったりもしている。</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けでトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を妨げないように配慮しながらトイレ誘導を行っている。ほとんどの利用者が薄いパットと布パンツを使用している。排泄記録に基づき個別に水分摂取、繊維の多い食事摂取、歩行を促すなど便秘予防にも努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表で個別に観察しています。朝食に野菜ジュースや乳製品、果物を取り入れています。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は曜日や時間、間隔を決めずに楽しんで頂いてる。また、出来る方には衣類の準備なども一緒にしてもらっている。</p>	<p>入浴は週2回、午後に行っている。時間的にゆとりがあることで、入浴前のバイタルチェック、身体チェック、整容、会話等に時間をかけられるため、利用者の状態を把握し要望を聴き取ることができている。浴槽は個浴で、入浴介助用車椅も利用可能となっている。基本的に同性介助で、入浴を嫌がる利用者には、時間や職員を変えて誘導している。清拭やフットスパを利用する等で清潔保持に努め、季節の柚子や菖蒲を使って利用者が入浴を楽しめるよう支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>環境の整備を行ったり、入居者の方の生活のリズムを整えるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方されている薬の説明書を個人カルテに表示し作用、副作用の確認をしている。薬は分かりやすく管理し、服薬チェック表に記入し管理している。また症状の変化の確認も行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個人個人の生活歴や一日の過ごし方の状況を生かし定期的な企画（外食、バイキング、映画の日、散歩、ドライブ）や季節ごとの企画を取り入れている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物等にて外出を図っている。また、外食や季節行事やドライブ等の企画も合わせて行っている。外出困難な方には送迎したり、介護タクシー等も活用されている。</p>	<p>1日一回はリハビリを兼ねて外出することを目標にし、職員と近隣への散歩や買い物に出掛けている。また以前住んでいた自宅を見に行ったり、お墓参り、リサイクル公園、紅葉狩り、春日大社の初詣、外食等、家族の協力を得ながら、利用者の希望に沿った場所へ出かけられるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理できる方には所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたいと希望の場合はかけに行き手紙の場合は返信できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>照明は日中・夜間等の状況に応じて調整している。また季節感を感じられるように生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意している。</p>	<p>玄関ホールには大きな観葉植物を置き、季節感のある飾り付けをしている。内部は茶系を基調とし、展示物は控えめにして「自宅と同じ環境」を基本に考えた空間を作っている。リビング兼食堂の隣にテレビとソファを置いた別室があり、利用者同士のお喋り、家族との語り等寛げる空間となっている。換気や清掃にも気を配り、居心地よく過ごせるように努めている。事業所の畑で職員と利用者で作った芋等の収穫で季節の味を楽しんでいる。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホールで気の会う方、家族との面談、又は一人で過ごしていただいている。また晴れた日には、中庭のベランダにテーブルを用意しているのでそこでも過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に今まで使い慣れた私物や馴染みのある家具類等持ってきて頂けるよう依頼している。自宅の環境に近づけるように配慮している。</p>	<p>居室にはカーテン、エアコン、クローゼット、ベッド洗面台を備え付けてある。寝具は貸し出しである。利用者は家族の写真、カレンダー、時計、収納タンス等馴染みの物を置いているが、利用者の身体状況によっては小物等置いていない方もいる。換気と清掃、家具の配置等に気を付け、利用者が混乱しないで、安心して過ごせるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には入居者の方の目印になるものを表札代わりに飾っている。またトイレには表示と照明の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない